

愛媛県西条市で捕獲されたコウモリ 2 種

金城芳典*・谷地森秀二*・山本貴仁**・小川次郎***

Two bat species captured from Saijo city, Ehime Prefecture

KANESHIRO Yoshinori*, YACHIMORI Syuuji*, YAMAMOTO Takahito** and OGAWA Jiro***

Key words: Saijo city, mist nets, *Rhinolophus cornutus*, *Miniopterus fuliginosus*

はじめに

愛媛県ではこれまで3科17種のコウモリ目が記録されており、そのうち標本や写真が残っているなど確実な生息記録があるのは14種である(山本ほか, 2004)。生息状況が十分に把握されていない種が多く、愛媛県版レッドデータブック(愛媛県貴重野生動物検討委員会, 2003)には、ヒナコウモリ科クロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinosus*, ノレンコウモリ *Myotis nattereri*, モリアブラコウモリ *Pipistrellus endoi*, ヒナコウモリ *Vespertilio superans*, チチブコウモリ *Barbastella leucomelas*, ウサギコウモリ *Plecotus auritus*, テングコウモリ *Murina leucogaster*, コテングコウモリ *Murina ussuriensis*, オヒキコウモリ科オヒキコウモリ *Tadarida insignis* が情報不足として掲載されている。情報が多く得られている種についても繁殖場所が把握されていないなど問題がある。コウモリ目など小型哺乳類は生息地や環境変化などにより、十分な生息状況が把握されないま

ま絶滅している可能性があることが指摘されている(南, 2003)。愛媛県に生息するコウモリ目の生息状況を把握することは、種の保全を検討していくうえで重要であり、より多くの情報を集積する必要がある。

我々は、西条市においてコウモリ目の生息状況を把握するため、かすみ網による捕獲調査を実施したので報告する。

調査地と方法

調査地を設定するにあたり、西条市内で山地および市街地周辺で自然林が残っている地域として、寒風山および円山森林公園の2ヶ所を選定した(図1)。調査地概況を表1に示す。

調査は2005年10月14日に円山森林公園で、10月21日と11月9日に寒風山で実施した。

調査はコウモリの飛翔ルートと予想される林道および車道に、かすみ網が飛翔ルートを遮るように地上高0 m~4.5 mに設置して行った。かすみ

*特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター

〒785-0023 高知県須崎市下分乙470-1

Shikoku Institute of Natural History, 470-1 Shimobun otu, Susaki 785-0023, Japan

**西条市石鎚ふれあいの里

〒793-0214 愛媛県西条市中奥1-25-1

Ishizuchi-FUREAINOSATO, 1-25-1 Nakaoku, Saijo, 798-0214 Japan

***愛媛大学農学部環境昆虫学研究室

〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7

Entomological Laboratory, Faculty of Agriculture, Ehime University, 3-5-7 Tarumi, Matsuyama, 790-8566, Japan

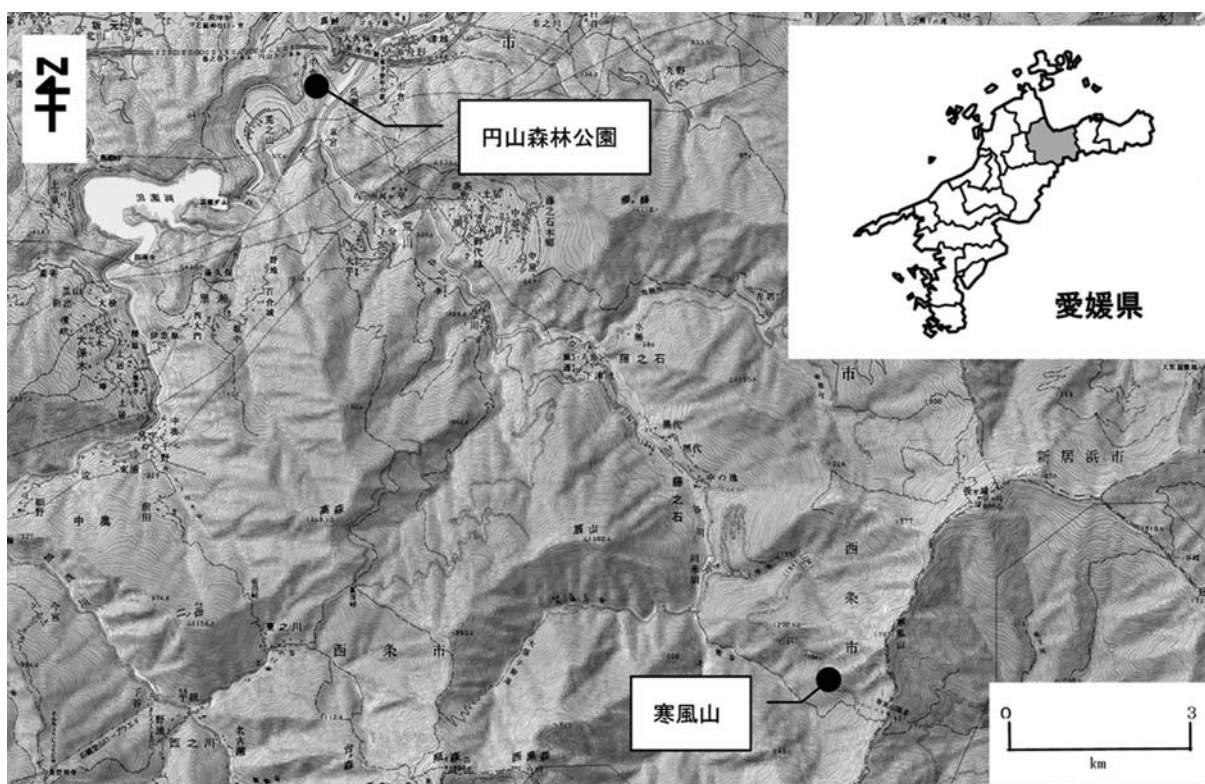


図1．調査地点．

表1．調査地概況

調査地	標高 (m)	設置場所	周辺植生	調査日	気温 (°C) (開始時-終了時)	天候
円山森林公園	90	沢沿いの林道	コナラ群落	2005年10月14日	22.7 - 21.5	曇りのち雨
寒風山	1,110	斜面沿いの車道	ブナ・ミズナラ群落	2005年10月21日	10.5 - 10.0	曇り
寒風山	1,110	斜面沿いの車道	ブナ・ミズナラ群落	2005年11月9日	7.4 - 6.3	曇り

網は、メッシュサイズ30mm、4 棚、幅 6 m のものを 2 枚用いた。設置時間帯は原則として日没前後から23時30分までとした。設置後は、調査員がかすみ網の近辺に待機し、捕獲状況の監視を行うとともにバット・ディテクター (MINI-3, Ultra Sound Advice 社) を用いてコウモリの飛来状況を把握した。バットディテクターにコウモリが発する超音波を感知した場合、感知した時間、気温および感知した周波数を記録した。コウモリを捕獲した場合、捕獲時間および気温を記録し、速やかにかすみ網から取り外した。捕獲個体は、前田 (1994) に従って種の同定、性の判別、中手骨の骨化の程度による成幼の判別、ノギスを用いた前腕長の計測、ポケットブルスケール (ハンディミニ1476, TANITA, JAPAN) を用いた体重の計

測および外部寄生虫の採取を行った。種名および学名は阿部ほか (2005) に従った。

捕獲個体は記録終了後、捕獲地点で速やかに放逐した。捕獲個体には初捕獲個体と再捕獲個体との混同を避けるため、油性マジックインキを用いて上腕部にマーキングを施した。

なお、捕獲は鳥獣捕獲許可 (平成17年度第 9-82号, 第 9-83号, 第 9-84号) により行った。

結 果

寒風山の調査では、ヒナコウモリ科コビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* 3 個体 (図 2) およびキクガシラコウモリ科コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* 1 個体 (図 3) の、計 2 科

愛媛県西条市で捕獲されたコウモリ 2 種



図 2 . 捕獲されたコビナガコウモリ .



図 3 . 捕獲されたコキクガシラコウモリ .

表 2 . 捕獲個体の計測結果

捕獲日	捕獲場所	種 名	成幼	性別	体重(g)	前腕長(mm)	備 考
10月21日	寒風山	コビナガコウモリ	成獣	メス	12.6	47.8	コウモリバエ採取
10月21日	寒風山	コビナガコウモリ	成獣	メス	13.8	46.0	
10月21日	寒風山	コキクガシラコウモリ	成獣	メス	6.0	29.5	
11月 9 日	寒風山	コビナガコウモリ	成獣	メス	12.4	47.0	

2 種 4 個体を捕獲した . 計測結果を表 2 に示す .
これ以外に , 目視により種不明のコウモリを確認した .

円山森林公園ではコウモリの捕獲は無かった .
各地点の捕獲状況を以下に示す .

円山森林公園 (調査日 : 10月14日)

コウモリは捕獲されなかったが , コウモリが発した超音波を 1 回確認した .

- 18 : 00 調査開始
- 18 : 24 コウモリが発した超音波 (40-70kHz) 確認
- 19 : 30 降雨のため調査終了

寒風山 (調査日 : 10月21日)

コビナガコウモリ成獣 2 個体 (メス) およびコキクガシラ成獣 1 個体 (メス) を捕獲した . これ以外に , 上空を高速で飛翔する種不明のコウモリを確認した .

- 17 : 46 調査開始
- 18 : 46 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 19 : 01 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 19 : 11 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 19 : 15 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 19 : 25 コウモリが発した超音波 (40-70kHz) 確認

- 19 : 30 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 19 : 32 コウモリが発した超音波 (40-70kHz) 確認
- 19 : 49 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 19 : 51 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 19 : 54 コウモリが発した超音波 (40-70kHz) 確認
- 20 : 03 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 20 : 10 コビナガコウモリ 1 個体 (メス) 捕獲 (データ収集後 , 放逐)
- 20 : 20 コビナガコウモリ 1 個体 (メス) 捕獲 (データ収集後 , 放逐)
- 20 : 46 コウモリが発した超音波 (70kHz) 確認
- 20 : 49 コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 20 : 53 コウモリが発した超音波 (40-70kHz) 確認
- 21 : 11 コウモリが発した超音波 (40-70kHz) 確認
コウモリが発した超音波 (110kHz) 確認
- 21 : 37 コウモリが発した超音波 (40-70kHz) 確認
- 22 : 35 コキクガシラコウモリ 1 個体 (メス) 捕獲 (データ収集後 , 放逐)
- 23 : 30 調査終了

寒風山 (調査日 : 11月 9 日)

- コビナガコウモリ成獣 1 頭 (メス) を捕獲した .
- 17 : 06 調査開始
- 18 : 53 コビナガコウモリ 1 個体 (メス) 捕獲

(データ収集後, 放逐)
22:15 調査終了

には調査全般にわたり大変お世話になった。心よりお礼申し上げる。

考 察

引用文献

山本ほか(2004)によると,これまで西条市で確認されている種は,キクガシラコウモリ科キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*, ヒナコウモリ科モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus*, ノレンコウモリ, アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*, ウサギコウモリ, ユビナガコウモリ, テングコウモリ, コテングコウモリの2科8種である。西条市で過去にコキクガシラコウモリの確認記録はなく,今回が初確認となった。

愛媛県において,西条市は比較的コウモリの生息種が把握されている地域である。しかしながら今回新たな種が捕獲されたことは,そのような地域であっても情報蓄積が十分ではないことを示している。今後も同様の調査を愛媛県内で実施し,より情報を蓄積していくことが必要である。

謝 辞

本研究は平成18年度西条市環境基礎調査業務の一環として実施した。永井礼子氏(西条市環境課)

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明. 2005. 日本の哺乳類 [改訂版]. 東海大学出版会, 東京, 206pp.
- 愛媛県貴重野生動植物検討委員会. 2003. 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 愛媛, 447pp.
- 前田喜四雄. 1994. 日本産コウモリ目の検索表(財団法人自然環境研究センター編: 日本の哺乳類) pp.159-67. 東海大学出版会, 東京.
- 南 正人. 2003. 個体レベルの行動研究はどのように野生動物の保全に役立つか—ツキノワグマとニホンジカの行動研究を保全に応用する—。日本鳥学会誌, 52(2): 79-87.
- 山本貴仁・阿部嘉昭・山本栄治・宮本大右. 2004. 愛媛県における翼手目の生息記録. 愛媛県総合科学博物館研究報告, 9: 1-9.

(原稿受理 2008年12月31日)